

NEW HOUSING JOURNAL

新住宅ジャーナル

メールマガジン (2011年6月号 Vol.8)

(発行所) (株)エルエルアイ出版

〒103-0004 東京都中央区東日本橋 2-27-4 靴下会館 7階

TEL 03-3868-0738 FAX 03-5809-3650

<http://www.lli-publishin g.com/>



ロハスデザインでも 仮設住宅がテーマ

今年のロハスのデザインでは、仮設住宅がテーマの一つとなった。「第6回ロハスデザイン大賞2011」は、新宿御苑で5月20日から3日間にわたって開催され、環境省とロハスクラブの共同企画によるエコハウス「チャレンジ25ハウス」などが展示された。東海大学チャレンジセンターで、ウッドブロックシステムを採

用した資源循環型仮設住宅「どんぐりハウス」を設置。これは、すでに大船渡市で1棟建てられたばかりの仮設住宅。岐阜県の(株)スギヤマの協力で伐採したヒノキ間伐材を用いている。柱は最大で90角の3m半。4トトラック3台で被災地まで運搬できる。サッシはYKKAPの協賛で複層ガラスの樹脂サッシ。工期は重機で4日、学

被災地の公共測量 年末から本格化の見込み

被災地では、復興の兆しとなる下水管や配水管などのインフラ工事の開始を待っているがかなり遅れる見通しだ。国や地方自治体が行う測量(公共測量)は、国土地理院の測量(基本測量)の成果をもとに行なうことが定められている。従って基準点測量が改定されなければ、公共事業の測量ができ

ない。具体的には、その基準点から各土地の条地図(不動産登記法14条にもとづく、いわゆる公図)を作成して、登記測量を行なう。つまり、登記測量ができなければ建物の敷地境界線が決められないので被災した宅地を建て替えることができない状態だ。三角点の改測としては1900点の改測を行う。高度地域基準点としては10

生4人で10日ほど。ウッドブロックなのでつなぎ合わせる釘打ちに時間がかかるようだ。

2階建ての「チャレンジ25ハウス」を手がけたのはSE構法で知られる(株)エヌ・シー・エヌ。構造では360mmという幅広の材を3本採用することで、壁を減らせるように工夫。2階天井はトップタイル一体型のOSBパネルで施工の合理化に取り組んでいる。パッシブ志向の機能・デザインとしては、外まわりのグリーンファンクス、1階のワイドスライディングや吹き抜け、2階の片引き窓、丸窓、電動シャッター、屋根裏の高所換気窓などが用いられている。

584点をとる。水準点改測は、1300点。これをもとに座標補正パラメーターを作成。パラメーター改算による未改測点の成果を計算し、順調に進めば10月に三角点、11月に水準点の改定と公開を進めている。登記測量が本格的に始動するのが11月以降ではないかと考えられる。